



花粉を大放出するスギ。前年の日照時間が長かった今年は花粉の勢いも強いと予測される

緊急目撃! 最新目撃! 第1回特集

最新09花粉症撃退! 最新治療法



マスク姿は、今や春の風物詩。面倒でもこれだけは離せない

朝起きると真っ赤に充血した目。かんでもかんでもタラリと滴り落ちる鼻水。わずかな空気も通さない鼻づまり……。今年もそろそろ、多くの日本人を苦しめる、花粉症シーズンが迫ってきた。

花粉症の元凶、スギ花粉の飛散が始まる。Xデーはいつか。全国200カ所で行われる観測、インターネットなどで情報を配信する「ウエザーニューズ」の花粉担当者が説明する。

「花粉が飛び始めるのは例年よりも少し遅めの2月10日15日ですね。北海道や東北を除くと、全国的に去年よりも量が多い。特に都心は、例年の10倍という凄まじい量の花粉が飛んだ5年に次ぐ、大量の花びらが飛散すると予想されています」

2月の気温により、2月に急に気温が上がると、3月上旬にピークを迎え、2月の気温が低いと、ピークはズレ込んで3月中旬以降になります(同前) どちらにしても、日本列島にいたるまで、この災難からは逃れられない。飛散開始のXデーが刻々と迫りつつあるなか、今からでも間に合う最新治療法をさがしてみた。

「この病気がやっかいなのは、完治しないことです。治療法や薬はたくさんありますが、どれも症状を緩和するだけ。もし花粉症をはじめとしたアレルギー性疾患を完治する薬が発明されたらノーベル賞ものではな いでしょうか」

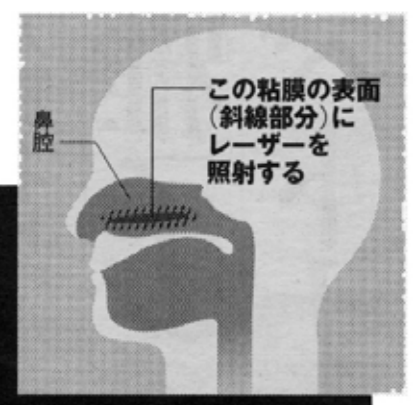
「レーザー治療は、鼻腔粘膜焼灼術」という手術の一つに分類されます。以前はレーザーで鼻の粘膜を焼き切る。ことで症状を抑えようとする大がかりな手術でした。少なくとも症状が出る1カ月前でないとい治療できなかったし、手術後の出血や痛みも酷かった。しかし、最新の手法では痛みや副作用もほとんどなく、1回の治療で1シーズン症状が緩和されます。手術時間自体も5〜6分と

飛散量は今年の3倍!! 今からでも間に合う!

短い」大城医師が奨めるそのレーザー治療とは、どういう仕組みなのか。そもそも花粉症とは、鼻の中にある粘膜のヒダが花粉に過敏に反応するアレルギーで炎症を起し、鼻水が出たり、鼻づまりが起る症状だ。そこで、炎症を起こす部分にレーザーを照射して、花粉をブロックしてしまう。従来、レーザーはかなりの高出力で照射していたが、今は比較的低出力で照射することができるようになった。つまり――

「強いレーザーで焼き切るのではなく、低出力で効果のあるヤグレーザー(MLR)という種類のレーザーを使って、粘膜を焼ける。手前の、蛋白質性」という状態にするという、負担の少ない手術なのです(大城医師)

実際の治療の手順は、まず鼻の中を検査して、腫れ具合などを確認する。そのうち、スプレー式の麻酔を鼻の中に吹きかけてレーザーを照射。



この粘膜の表面(斜線部分)にレーザーを照射する

レーザー治療では細い管を鼻の穴から挿入し、粘膜の表面にレーザーを照射する。照射された部分は、白く変質するが、花粉のアレルギーを抑えてくれる種類が違っ

「チクツとした痛みは少しありますが、照射時間は約1分と、あっという間です。照射のあと、再び鼻の中を確認して終了します」

このレーザー治療で20年苦しめられた花粉症を撃退した50代の男性はこう話す。 「毎年3月頃をピークに鼻づまりがひどくて、夜も眠れないような状態でした。薬を飲んでいましたが、眠気が襲ってくる。頭もボーッとして仕事の手につかず、会社を早退する目もありました。それが、治療を受けたら、3日後には夜もスッと眠れるようになった。薬を飲む目も少なくなりました」

大城医師によると、レーザー照射後、一時的に鼻炎の症状が重くなるが、平均1週間、早ければ2日で消え、以後はあの不快な花粉症の症状から解放されるとい。ただし、鼻の粘膜はやがて「再生」されるため、これにて根治というわけではない。効果の目安は1シーズンだが、個人差があり、1回の照射で3シーズン効果を持続する例もある。

ちなみに、どの病院でも同じように治療が受けられるのだろうか。 「レーザーによる鼻腔粘膜焼灼術は保険適用で行われていることが多く、だいた

い6000〜7000円程度の自己負担を受けられます。ただし、医療機関によつては、レーザーの種類が違っ

ていたり保険が適用されなかったりするので、事前に問い合わせるとよいでしょう」

最新のレーザー治療がイチ推しといっても、もちろん耳鼻科で処方される治療薬に頼る人は多い。こちらにも年々改良されている。聖路加国際病院耳鼻咽喉科部長の今井透医師は言う。

「一般的に花粉症で処方される、副作用の少ない抗ヒスタミン薬の「アレグラ」は主にくしゃみや鼻水の緩和だけでなく、目のアレルギー症状を抑える効果もあります。さらに今シーズンはこの薬よりも効果の高いステロイド剤の点鼻薬が改良され、これまで一日2〜4回の噴霧が必要だったのが、一日1回で済むようになりまし。副作用もないので安心です。」

また、鼻づまりが薬にならなくなった。これも一日1回の服用で済むので、朝飲めば夜まで効果が持続します。忙しくてこまめに薬が飲めないようなサラリーマンの患者さんに処方するようになっています。

最近耳鼻科を1回受診すれば約1カ月の薬を処方できるようになったので、1シーズン3〜4回の受診で事足りるはずですが、それでも病院に行けない人に、薬剤師の三上彰貴氏がこうアドバイスする。 「市販の薬でも、病院で処方される薬と成分が同じというものもありますので、薬局で薬剤師に相談してみてください」